

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
野々木 宏			
火2、3			
添付ファイル			

科目の概要	各疾患に適切な栄養管理や栄養指導を実施するにあたり、その根拠を考えるうえで解剖生理学に基づいた必要な病態生理を理解する。
授業の内容	<p>第1回 腎臓・尿路系疾患 ①腎機能の解剖生理復習、腎不全</p> <p>第2回 腎臓・尿路系疾患 ②腎炎、腎疾患、その他</p> <p>第3回 神経・精神系疾患 ①神経機能とその障害</p> <p>第4回 神経・精神系疾患 ②嚥下障害、摂食障害、その他</p> <p>第5回 呼吸器疾患 ①肺炎、COPD</p> <p>第6回 呼吸器疾患 ②喘息、その他</p> <p>第7回 血液疾患 ①貧血</p> <p>第8回 血液疾患 ②白血病、出血傾向をきたす疾患、その他</p> <p>第9回 運動器疾患 ①骨粗鬆症、骨軟化症、</p> <p>第10回 運動器疾患 ②変形性関節症、その他</p> <p>第11回 皮膚疾患 熱傷、褥瘡、その他</p> <p>第12回 免疫・アレルギー疾患 ①免疫、食物アレルギー</p> <p>第13回 免疫・アレルギー疾患 ②膠原病、その他</p> <p>第14回 婦人科疾患、老化と炎症</p> <p>第15回 まとめ、前期試験</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	臨床栄養学に必要な病態生理を修得する。
授業の方法	<p>【授業形態】 講義</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 テキスト、パワーポイント等の資料使用、毎回小テストを実施し理解度を確認する。</p>
成績評価の方法	定期試験90%、平常点10%（小テストの結果）
教科書・テキスト	I で使用した 栄養学イラストレイテッド 臨床医学疾病の成り立ち改訂第2版 田中明ら編、羊土社、2015
参考書	読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学出版社、臨床栄養学概論 渡邊早苗 他 建帛社、ビジュアル栄養療法 丸山千寿子、中屋豊、編、南江堂
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	テキスト重視、レジメを事前配布し予習をし、また小テストの解説を利用して復習を行う。

履修上の留意事項	栄養学に必要な疾病を理解するため、解剖生理学を基本に病態の知識を習得する。これが疾病の理解と栄養療法の重要性を理解するうえで必須となる。そのため授業時間内での習得を強く勧める。これから社会人となる基本的モラルが必要であり、私語を慎み、スマートフォンや他の作業は授業の妨げとなるため禁止する。積極的な質問は歓迎します。
オフィスアワー	授業終了後に対応
課題に対するフィードバックの方法	試験終了後にA-Portal等を通して、質疑応答を受けつける。
実務経験	これまで循環器診療、集中治療、救急医療に従事し、臨床医学の実践と臨床研究、また医療従事者・学生への教育に従事してきた。重症例への栄養療法の重要性を臨床例で経験してきた。
その他	なし